

H27-B-1 68.15~74.10m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度		記事
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
199	68.15	68.60	(岩級区分欄)CL			68.15	68.60	(岩級区分欄)CLに含める	
200	68.43	68.49	φ5~20mm/㎡礫状~片状に砕けているが砂や粘土ははさまない。			68.43	68.49	68.43~68.49m: コアチューブ引き上げ部の擾乱で、径5~20mm礫状~片状に砕けているが砂や粘土ははさまない。	
201	68.60	69.05	D 軟化著しい硬さ「E」であるが、岩組織や割れ目は明瞭に残留している。 上端の68.60~68.65mは砂状化を呈するが、これはコア引上げ時で生じた可能性が高い。			68.60	69.05	68.60~69.05m:D 軟化著しい硬さ「E」であるが、原岩組織や割れ目は明瞭に残留している。 68.60~68.65m:コアチューブ引き上げ部の擾乱で砂状化している。 68.79~68.95m間:硬さCの硬質部を含む。 68.95~69.05m:風化が著しく明黄褐色を呈する。	
202	68.60	69.05	(岩級区分欄)D			68.60	69.05	(岩級区分欄)CLに含める	
203	-	-	-			68.79	68.95	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)δランク	
204	69.05	69.56	CL 30~50° 割れ目主体。密着度の低い中割れ目も多く含む。 割れ目ぞいに厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。			69.05	69.56	69.05~69.56m:CL 30~50° 割れ目主体。密着度の低い中割れ目も多く含む。 割れ目ぞいに厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。	
205	69.07	69.07	厚さ2~3mm/㎡マンガンが脈状に分布			69.07	69.10	69.07~69.10m:幅3cmでマンガンが濃集する。	
206	69.56	69.70	D 少量の白色粘土細脈を伴う。			69.56	69.70	69.56~69.70m:D 少量の白色粘土細脈を伴う。	
207	69.56	69.70	(岩級区分欄)D			69.56	69.70	(岩級区分欄)CLに含める	
208	69.70	69.73	破砕帯(主せん断面φ970m)			69.70	69.73	●69.70~69.73m:破砕部 69.70m:粘土状部(Hc-1) 上下端55°で直線的に連続。軟質で、にぶい黄褐色を呈する。幅1mm。 69.70~69.73m:粘土混じり岩片状部(Hg) 上端55°で、下端57°でいずれも直線的に連続。径3~10mm硬さE(粘土化)。Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。灰黄色を呈する。幅23mm。	
209	69.70	69.70	Hc-1 55°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟弱粘土(ガウジ)、色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)、厚さ1mm。			69.70	69.70	-表現の統一(ガウジ-Hc-1に言いで表現) -原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
210	69.70	69.73	Hj 上端55°で、下端57°でいずれも直線的に連続。φ3~10mm/㎡硬さE(粘土化)、Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。 全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰黄色(2.7Y7/2)、厚さ1mm			69.70	69.73	-硬質、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 -追記の修正(厚さの測定により、厚さ1mm→23mmとした)	
211	69.73	74.10	CL 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現する。 硬さ「D」では割れ目に砂などの挟在物が分布するが、硬さ「C」区間では挟在物は殆んど分布しない。			69.73	74.10	69.73~74.10m:CL 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現する。 硬さ「D」では割れ目に砂などの挟在物が分布するが、硬さ「C」区間では挟在物はほとんど分布しない。	
212	70.06	70.09	45° 割れ目ぞいに風化で砂状化する。 70.43~71.27mの硬さ「C」のうち、70.49~70.59mではφ5mm以下の白濁化した長石が多い。70.59m以下では少ない。			70.06	70.59	70.06~70.59m:45° 割れ目ぞいに風化で砂状化する。 70.43~71.27m:硬さ「C」のうち、70.49~70.59mでは径5mm以下の白濁化した長石が多い。70.59m以下では少ない。	
213	71.27	71.60	45~60° 幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。			71.27	71.60	71.27~71.60m: 45~60° 幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。	
214	71.37	71.50	φ10mm前後の大型の石英斑晶が点在。 岩片も硬さ「C」と周囲より硬質化している。			71.37	71.50	71.37~71.50m: 径10mm前後の大型の石英斑晶が点在。 岩片も硬さ「C」と周囲より硬質化している。	
215	-	-	-			71.37	71.50	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	
216	71.88	71.88	0~10° 幅1mm石英脈が密着して連続。			71.88	71.88	71.88m:0~10° 幅1mm石英脈が密着して連続。	
217	72.10	72.74	硬さ「C」区間では割れ目挟在物は殆んど分布しない。 長石の一部は白濁化する。			72.10	72.74	72.10~72.74m: 硬さ「C」区間では割れ目挟在物はほとんど分布しない。長石の一部は白濁化する。	
218	72.74	74.10	硬さ「D」主体だが、硬さ「C」の岩片も含まれている。割れ目ぞいに風化、砂状化することがある。			72.74	74.10	72.74~74.10m: 硬さ「D」主体だが、硬さ「C」の岩片も含まれている。 割れ目ぞいに風化、砂状化することがある。	

H27-B-1 73.35~75.57m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
219	73.35	73.38	厚さ25~40mmで締った砂状化を呈する。岩組織は残留している。	73.35	73.38	厚さ25~40mmで締った砂状化を呈する。変更している。岩組織は残留している。	-	変質の状況を追記した	73.35	73.38	73.35~73.38m: 厚さ25~40mmで締った砂状化を呈する。変質している。原岩組織は残留している。	-
220	73.65	73.76	30°と60°の割れ目が交差しφ10~50mmの岩片状コアを呈する。	-	-	-	-	-	73.65	73.76	73.65~73.76m: 30°と60°の割れ目が交差し、径10~50mmの岩片状コアを呈する。	-
221	74.10	74.36	CM	-	-	-	-	-	74.10	74.36	74.10~74.36m: GM	-
222	74.10	74.36	(岩級区分欄)CM	74.10	74.36	(岩級区分欄)CL	-	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	74.10	74.36	(岩級区分欄)CLに含める	-
223	74.36	74.50	破砕帯(主せん断面74.40m)	74.36	74.50	破砕部(最新活動面74.40m) 連続する細粒部	-	用語の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一 最新活動面の性状を追記した ・砂分を多く含むため、礫質砂状に変更した ・細粒部の連続性・直線性 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	74.36	74.50	●74.36~74.50m:破砕部 74.36~74.40m:礫質砂状部(Hb) 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5mm岩片を約10%含む軟質な「礫質砂状」を呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ0~30mm。 74.40~74.41m:粘土状部(Hc-1) 上端30°、下端30°でいずれも湾曲して連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む、灰褐色を呈する。幅7mm。 74.41~74.50m:礫質砂状部(Hb) 上端30°で湾曲して連続。下端はコアチューブ引き上げによる擾乱部で不明。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5~30mm岩片を10~20%含む。にぶい黄橙色を呈する。幅75mm以上。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
224	74.36	74.40	Hb 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。φ2~3mm/m石英粒、粘土化したφ5mm岩片を約10%含む軟質な「礫質粘土状」を呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ0~30mm	74.36	74.40	Hb 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。φ2~3mm/m石英粒、粘土化したφ5mm岩片を約10%含む軟質な「礫質粘土状」を呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ0~30mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。含まれる細粒部は網目状に分布。	-	-	74.36	74.50	●74.36~74.50m:破砕部 74.36~74.40m:礫質砂状部(Hb) 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5mm岩片を約10%含む軟質な「礫質砂状」を呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ0~30mm。 74.40~74.41m:粘土状部(Hc-1) 上端30°、下端30°でいずれも湾曲して連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む、灰褐色を呈する。幅7mm。 74.41~74.50m:礫質砂状部(Hb) 上端30°で湾曲して連続。下端はコアチューブ引き上げによる擾乱部で不明。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5~30mm岩片を10~20%含む。にぶい黄橙色を呈する。幅75mm以上。	-
225	74.40	74.41	Hc-1 30°で上下端とも湾曲して連続。φ1mm/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱粘土(方ウジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)厚さ7mm	74.40	74.41	Hc-1 30°で上下端とも湾曲して連続。φ1mm/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱粘土からなる(方ウジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)厚さ7mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	-	・表現の統一(方ウジ→Hc-1)に含んで表現 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	74.40	74.50	●74.36~74.50m:破砕部 74.36~74.40m:礫質砂状部(Hb) 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5mm岩片を約10%含む軟質な「礫質砂状」を呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ0~30mm。 74.40~74.41m:粘土状部(Hc-1) 上端30°、下端30°でいずれも湾曲して連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む、灰褐色を呈する。幅7mm。 74.41~74.50m:礫質砂状部(Hb) 上端30°で湾曲して連続。下端はコアチューブ引き上げによる擾乱部で不明。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5~30mm岩片を10~20%含む。にぶい黄橙色を呈する。幅75mm以上。	-
226	74.41	74.50	Hb 上端30°で湾曲して連続。下端は74.50m以降は標削時にバラけたコアのため位置不明。 φ2~3mm/m石英粒、粘土化したφ5~30mm岩片を10~20%含む軟質な「礫質粘土状」を呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ75mm以上	74.41	74.50	Hb 上端30°で湾曲して連続。下端は74.50m以降は標削時にバラけたコアのため位置不明。 φ2~3mm/m石英粒、粘土化したφ5~30mm岩片を10~20%含む軟質な「礫質砂状」を呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ75mm以上 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明瞭	-	・砂分を多く含むため、礫質砂状に変更した ・細粒部の連続性・直線性 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	74.41	74.50	●74.36~74.50m:破砕部 74.36~74.40m:礫質砂状部(Hb) 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5mm岩片を約10%含む軟質な「礫質砂状」を呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ0~30mm。 74.40~74.41m:粘土状部(Hc-1) 上端30°、下端30°でいずれも湾曲して連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む、灰褐色を呈する。幅7mm。 74.41~74.50m:礫質砂状部(Hb) 上端30°で湾曲して連続。下端はコアチューブ引き上げによる擾乱部で不明。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5~30mm岩片を10~20%含む。にぶい黄橙色を呈する。幅75mm以上。	-
227	74.50	75.57	D	-	-	-	-	-	74.50	75.57	74.50~75.57m: D	-
228	74.50	75.00	礫状コアで採取され、割れ目状況など不明	74.50	75.00	コアチューブ引き上げ部周辺で礫状コアで採取され、割れ目状況など不明。	-	-	74.50	75.00	74.50~75.00m:コアチューブ引き上げ部周辺で礫状コアで採取され、割れ目状況など不明。	-
229	75.00	75.57	岩組織は残留しているが、多くの割れ目は消滅している。	-	-	-	-	-	75.00	75.57	75.00~75.57m: 原岩組織は残留しているが、多くの割れ目は消滅している。	-

H27-B-1 75.57~78.43m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事					
記事		記事		記事		記事		記事		記事		記事	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事
		コア観察カードから正しく転記されているか?			記事(変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)					記事を削除・変更・追記した理由			適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)
					追加変更した情報が正しく転記されているか?								
230	75.57	76.00	破砕帯(主せん断面75.73m)	75.57	76.00	破砕部(最新活動面75.73m) 最も直線的な細粒部の下端	用語の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一 最新活動面の性状を追記した			●75.57~76.00m:破砕部 75.57~75.71m:粘土混じり岩片状部(H) 上端不明瞭ながら25°で、下端88°で波打って連続。径5~20mm岩片からなり、岩片間は粘土化~砂状化する。灰黄褐色を呈する。幅90~120mm。 75.71~75.73m:濃混じり粘土状部(Hc-2) 上端88°で波打って、下端88°で直線的に連続。軟質で、径1~3mm石英粒と径3mm岩片を5~10%含む。灰褐色を呈する。幅10~12mm。 75.73~75.93m:硬質粘土状部(Ha) 上端68°で直線的、下端84°で波打って連続。硬質で、径2~4mm石英粒、径5~10mm岩片を10~15%含む。石英粒は直線的なせん断面方向に配列している。明褐色~灰褐色を呈する。幅55mm。 75.93~76.00m:粘土混じり~粘土質岩片状部(Hj) 上端84°で波打って、下端は不明瞭(30°?)に連続。径5~10mm岩片と岩片間の粘土からなる。明褐色を呈する。幅80mm以上。			・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
231	75.57	75.71	Hj 上端は不明瞭ながら25°で、下端88°で波打って連続。φ5~20m/m岩片からなり、岩片間は粘土化~砂状化する「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰黄褐色(10YR6/2)、厚さ90~120m/m	75.57	75.71	Hj 上端は不明瞭ながら25°で、下端88°で波打って連続。φ5~20m/m岩片からなり、岩片間は粘土化~砂状化する「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰黄褐色(10YR6/2)、厚さ90~120m/m 軟質、含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した						
232	75.71	75.73	Hc-2 上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~3m/m石英粒とφ3m/m岩片を5~10%含む軟質粘土(ガワジ)。色調は灰褐色(5YR5/2)、厚さ10~12m/m	75.71	75.73	Hc-2 上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~3m/m石英粒とφ3m/m岩片を5~10%含む軟質粘土(ガワジ)。色調は灰褐色(5YR5/2)、厚さ10~12m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。	・表現の統一(ガワジ→Hc-2)に含んで表現) 硬を含むため疎混じり粘土状に変更した 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	75.57	76.00				
233	75.73	75.93	Hb 上端68°で直線的、下端64°で波打って連続。φ2~4m/m石英粒、φ5~10m/m岩片を10~15%含む半固結状の硬質粘土状を呈する。石英粒は主せん断面方向に配列している。色調は明褐色(5YR7/2)~灰褐色(5YR5/2)、厚さ55m/m	75.73	75.93	Hb 上端68°で直線的、下端64°で波打って連続。φ2~4m/m石英粒、φ5~10m/m岩片を10~15%含む半固結状の硬質粘土状を呈する。石英粒は主せん断面方向に配列している。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。色調は明褐色(5YR7/2)~灰褐色(5YR5/2)、厚さ55m/m	・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した 用語の統一(半固結状→硬質) 主せん断面を直線的なせん断面に変更した						
234	75.93	76.00	Hj 上端は84°で波打って、下端は不明瞭(30°?)に連続。φ5~10m/m岩片と岩片間の粘土からなり「粘土混じり~粘土質岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ60m/m以上。	75.93	76.00	Hj 上端は84°で波打って、下端は不明瞭(30°?)に連続。φ5~10m/m岩片と岩片間の粘土からなり「粘土混じり~粘土質岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ60m/m以上。 やや軟質、含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した						
235	76.00	76.91	D 硬さ「C」のφ5~20m/m岩片と締った砂状からなり、全体的には締った砂礫状を呈する。	-	-	-		76.00	76.91	76.00~76.91m:D 硬さ「C」のφ5~20mm岩片と締った砂状からなり、全体的には締った砂礫状を呈する。			
236	76.54	76.70	硬さ「C」の岩片部	-	-	-		76.54	76.70	76.54~76.70m:硬さ「C」の岩片部。			
237	-	-	-	76.54	76.70	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)cランク (風化欄)Aランク (実質欄)2ランク	・記事欄の硬さの記載に合わせて追記した 併せてコアの形状欄Vランク、割れ目状態欄cランク、風化欄にAランク、実質欄に2ランクを追記した	76.54	76.70	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)cランク (風化欄)Aランク (実質欄)2ランク			
238	-	-	-	76.70	76.91	(割れ目状態欄)cランク	・割れ目が認識できるため、割れ目状態欄にcランクとして追記した	76.70	76.91	(割れ目状態欄)cランク			
239	76.70	76.91	岩片はわずかなり、代って幅1~2m/m軟質白色粘土脈が多くなる。	-	-	-		76.70	76.91	76.70~76.91m: 岩片はわずかなり、代って幅1~2mm軟質白色粘土脈が多くなる。			
240	76.91	77.19	CL 割れ目ぞいに砂状化するものもある。	-	-	-		76.91	77.19	76.91~77.19m:CL 割れ目ぞいに砂状化するものもある。			
241	76.91	77.19	(岩縁区分欄)CL	76.91	77.19	(岩縁区分欄)D	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩縁に含めた	76.91	77.19	(岩縁区分欄)Dに含める			
242	-	-	-	77.10	77.10	傾斜75°幅1mmの石英脈を伴う	・周囲と異なる特徴を追記した	77.10	77.10	77.10m:傾斜75°幅1mmの石英脈を伴う。			
243	77.19	78.00	D 著しく軟化するが、岩組織と割れ目の一部は残留する。 77.63~77.80間はロッド引上げ時にコアが乱れ、様状を呈している。	-	-	-		77.19	78.00	77.19~78.00m:D 著しく軟化するが、原岩組織と割れ目の一部は残留する。 77.63~77.80m:ロッド引上げ時にコアが乱れ、様状を呈している。			
244	78.00	78.43	CL 50~80°割れ目主体、これに斜~直交する30°も混入する 割れ目の一部は厚さ2~3m/mの砂を挟む	-	-	-		78.00	78.43	78.00~78.43m:CL 60~80°割れ目主体、これに斜~直交する30°も混入する。 割れ目の一部は厚さ2~3mmの砂を挟む。			

H27-B-1 78.00~82.62m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
245	78.00	78.43	(岩級区分欄)CL	78.00	78.43	(岩級区分欄)D	78.00	78.43	(岩級区分欄)Dに含める	-
246	78.43	78.72	D 風化・砂状化が拡大し、締った砂礫状を呈する。 周辺はマンガン鉱染を受ける。	-	-	-	78.43	78.72	78.43~78.72m:D 風化・砂状化が拡大し、締った砂礫状を呈する。	-
247	78.60	78.90	-	-	-	-	78.60	78.60	78.60m周辺はマンガン鉱染を受ける。	-
248	78.72	78.87	破砕帯(主せん断面78.87m)	78.72	78.87	破砕帯(主せん断面78.87m) 最新活動面は78.82mか78.87mの可能性ある	78.72	78.87	●78.72~78.87m:破砕帯 78.72~78.87m:粘土混じり岩片状部(H) 上端は31°、幅5mm褐色粘土脈で波打って、下端は60°で直線的に連続。径5mm程度の岩片からなり、岩片間の一部に幅1mmの軟質白色粘土が脈状に分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ130~140mm/m	- ・破砕 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
249	78.72	78.87	H 上端は31°、幅5mm/m褐色粘土脈で波打って、下端は直線的に連続。径5mm程度の岩片からなり、岩片間の一部に幅1mmの軟質白色粘土が脈状に分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ130~140mm/m	78.72	78.87	H 上端は31°、幅5mm/m褐色粘土脈で波打って、下端は60°で直線的に連続。径5mm程度の岩片からなり、岩片間の一部に幅1mmの軟質白色粘土が脈状に分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ130~140mm/m やや硬質、含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる	78.72	78.87	・下端の傾斜を追記した ・硬質、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
250	78.87	78.87	He-1 80°で上下端とも直線的に連続。径1mm石炭粒をわずかに(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR4/2)。厚さ1~2mm/m	78.87	78.87	He-1 80°で上下端とも直線的に連続。径1mm石炭粒をわずかに(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR4/2)。厚さ1~2mm/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。	78.87	78.87	・表現の統一(ガウジHe-1に含んで表現) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
251	78.87	82.51	CL	-	-	-	78.87	82.51	78.87~82.51m:CL	-
252	78.87	79.27	硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。	78.87	79.27	硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。 傾斜85~90°の割れ目が分布する。	78.87	79.27	78.87~79.27m:硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。傾斜85~90°の割れ目が分布する。	-
253	79.02	79.02	55°厚さ3mm/m褐色砂~径2mm細片化岩片はさむ	-	-	-	79.02	79.02	79.02m:55°厚さ3mm褐色砂~径2mm細片化岩片はさむ。	-
254	79.27	80.66	硬さ「C」主体 上端側の79.27~79.39mは硬さ「B」を呈硬	-	-	-	79.27	80.66	79.27~80.66m:硬さ「C」主体。 上端側の79.27~79.39mは硬さ「B」と堅硬。	-
255	-	-	-	79.27	79.59	(コアの硬さ欄)Bランク	79.27	79.59	(コアの硬さ欄)Bランク	-
255	-	-	-	79.54	79.54	傾斜50°幅0.5~1mmの灰白色粘土はさむ。	79.54	79.54	79.54m:傾斜50°で幅0.5~1mmの灰白色粘土を挟む。	-
257	79.60	79.95	褐色化するが緑化のための硬さ「C」と硬質	-	-	-	79.60	79.95	79.60~79.95m:褐色化するが緑化のための硬さ「C」と硬質。	-
259	79.96	80.23	45°前後の割れ目が多い。 これらの割れ目には褐色粘土やマンガン厚さ0.5~3mm/mではさんでいる。	-	-	-	79.96	80.23	79.96~80.23m:45°前後の割れ目が多い。 これらの割れ目には褐色粘土やマンガン厚さ0.5~3mmで挟んでいる。	-
259	80.30	80.40	割れ目ぞいに砂状化が進む。	-	-	-	80.30	80.40	80.30~80.40m:割れ目ぞいに砂状化が進む。	-
260	80.30	80.35	コアチューブ引き上げ時に発生した角礫状コア	-	-	-	80.30	80.35	80.30~80.35m:コアチューブ引き上げ時に発生した角礫状コア。	-
261	80.66	81.87	硬さ「D」中に硬さ「C」の径2~3mm岩片が断片的に分布 80°前後の高角度割れ目が多い。	-	-	-	80.66	81.87	80.66~81.87m: 硬さ「D」中に硬さ「C」の径2~3mm岩片が断片的に分布。 80°前後の高角度割れ目が多い。	-
262	81.17	81.17	55°割れ目に厚さ10~15mm/mで砂と褐色粘土はさむ。挟在物中と割れ目周辺に径0.5mm以下の微細な白雲母伴う。 周辺は幅1cm程度緑色化している。	81.17	81.17	55°割れ目に厚さ10~15mm/mで砂と褐色粘土はさむ。挟在物中と割れ目周辺に径0.5mm以下の微細な白雲母伴う。 周辺は幅1cm程度緑色化している。	81.17	81.17	81.17m:55°割れ目に厚さ10~15mmで砂と褐色粘土はさむ。 挟在物中と割れ目周辺に径0.5mm以下の微細な白雲母伴う。周辺は幅1cm程度緑色化している。	-
263	81.82	81.87	風化で締った砂礫状を呈する。	81.82	81.87	コア引き上げ部で締った砂礫状を呈する。	81.82	81.87	81.82~81.87m:コアチューブ引き上げ部で締った砂礫状を呈する。	-
264	81.87	82.51	割れ目ぞいに砂状化する部分も含まれる。	81.87	82.51	割れ目ぞいに砂状化する部分も含まれる。 10~30°と50~70°程度の割れ目がみられる。	81.87	82.51	81.87~82.51m:割れ目ぞいに砂状化する部分も含まれる。 10~30°と50~70°程度の割れ目がみられる。	-
265	82.51	82.62	D 風化で砂状化する。径0.5~1cmのCp岩片が塊状に分布する	-	-	-	82.51	82.62	82.51~82.62m:D 風化で砂状化する。径0.5~1cmの花崗岩岩片が塊状に分布する。	-

H27-B-1 82.51~86.86m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
266	82.51	82.62	(岩級区分欄)D	82.51	82.62	(岩級区分欄)CL	82.51	82.62	(岩級区分欄)CLに含める	-
267	82.62	82.94	CL 割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1~2m/白色粘土脈はさむ	-	-	-	82.62	82.94	82.62~82.94m:CL 割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1~2mm白色粘土脈はさむ。	-
268	82.94	84.09	CM ゆる割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる割れ目の挟在物は少ない。	82.94	84.09	CM ゆる割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる割れ目の挟在物は少ない。 30~50°と70~90°の割れ目が3~10cm間隔で分布する。	82.94	84.09	82.94~84.09m:CM ゆる割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。割れ目の挟在物は少ない。 30~50°と70~90°の割れ目が3~10cm間隔で分布する。	-
269	83.30	83.47	長石の一部が白濁化する。	-	-	-	83.30	83.47	83.30~83.47m:長石の一部が白濁化する。	-
270	84.07	84.09	上端45°、下端65°割れ目で囲まれ、砂状化~細片状化する。 厚さ1~10m/mで厚さ3m/レンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染付。	-	-	-	84.07	84.09	84.07~84.09m: 上端45°、下端65°割れ目で囲まれ、砂状化~細片状化する。 厚さ1~10m/mで厚さ3mm/レンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染付。	-
271	84.09	84.92	CH 60~80°の高角度の「ゆる割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。	-	-	-	84.09	84.92	84.09~84.92m:CH 60~80°の高角度の「ゆる割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。	-
272	84.50	84.50	36°割れ目の一部に厚さ2~3m/mのマンガンを伴う。	-	-	-	84.50	84.50	84.50m:36°割れ目の一部に厚さ2~3mmのマンガンを伴う。	-
273	84.82	84.92	割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴わない。	84.82	84.92	割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴わない。 コア引き上げ部	84.82	84.92	84.82~84.92m: コアチューブ引き上げ時の擾乱により、割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴わない。	-
274	84.92	85.38	CL 下位破砕帯の主せん断面と同方向の50~60°割れ目やゆる割れ目が多い。	84.92	85.38	CL 下位破砕帯の直線的なせん断面と同方向の50~60°割れ目やゆる割れ目が多い。	84.92	85.38	84.92~85.38m:CL 下位破砕帯の直線的なせん断面と同方向の50~60°割れ目やゆる割れ目が多い。	-
275	85.01	85.01	幅1m/m以下22°石英脈が50°割れ目と斜交して連続。	-	-	-	85.01	85.01	85.01m:幅1mm以下、22°石英脈が50°割れ目と斜交して連続。	-
276	85.38	85.41	(岩級区分欄)D	85.38	85.41	(岩級区分欄)CL	85.38	85.41	(岩級区分欄)CLに含める	-
277	85.38	85.41	破砕帯(主せん断面85.41m)	85.38	85.41	破砕帯(最新活動面85.41m、直線的な細粒部)	85.38	85.41	●85.38~85.41m:破砕帯 85.38~85.41m:粘土混じり岩片状部(H) 上端45~50°で1箇所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端47°で直線的に連続。軟質で、径2~3mm石英粒と径3~5mm粘土状部からなる。こぶみ黄褐色を呈する。幅20~25mm、上端の割れ目沿いにマンガン鉱染受け黒褐色化する。 85.41m:粘土状部(Hc-1) 上端47°、下端47°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1mm石英粒をこくわず(5%以下)含む。灰黄褐色を呈する。幅2mm。	-
278	85.38	85.41	H 上端45~50°で1箇所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端は47°で直線的に連続。φ2~3m/m石英粒とφ3~5m/m粘土状部と基質の砂状~粘土状部からなる軟質な「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調はこぶみ黄褐色(10YR7/2)、厚さ20~25m/m上端の割れ目沿いにマンガン鉱染受け黒褐色化する。	85.38	85.41	H 上端45~50°で1箇所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端は47°で直線的に連続。φ2~3m/m石英粒とφ3~5m/m粘土状部と基質の砂状~粘土状部からなる軟質な「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調はこぶみ黄褐色(10YR7/2)、厚さ20~25m/m上端の割れ目沿いにマンガン鉱染受け黒褐色化する。 含まれる細粒部は新目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。	85.38	85.41	●85.38~85.41m:破砕帯 85.38~85.41m:粘土混じり岩片状部(H) 上端45~50°で1箇所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端47°で直線的に連続。軟質で、径2~3mm石英粒と径3~5mm粘土状部からなる。こぶみ黄褐色を呈する。幅20~25mm、上端の割れ目沿いにマンガン鉱染受け黒褐色化する。 85.41m:粘土状部(Hc-1) 上端47°、下端47°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1mm石英粒をこくわず(5%以下)含む。灰黄褐色を呈する。幅2mm。	-
279	85.41	85.41	Hc-1 47°で上下端とも直線的に連続。φ1m/m石英粒をこくわず(5%以下)含む軟弱な粘土(ガワシ)。色調は灰黄褐色(10YR5/2)厚さ2m/m	85.41	85.41	Hc-1 47°で上下端とも直線的に連続。φ1m/m石英粒をこくわず(5%以下)含む軟弱な粘土(ガワシ)。色調は灰黄褐色(10YR5/2)厚さ2m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない	85.41	85.41	●85.38~85.41m:破砕帯 85.38~85.41m:粘土混じり岩片状部(H) 上端45~50°で1箇所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端47°で直線的に連続。軟質で、径2~3mm石英粒と径3~5mm粘土状部からなる。こぶみ黄褐色を呈する。幅20~25mm、上端の割れ目沿いにマンガン鉱染受け黒褐色化する。 85.41m:粘土状部(Hc-1) 上端47°、下端47°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1mm石英粒をこくわず(5%以下)含む。灰黄褐色を呈する。幅2mm。	-
280	85.41	85.92	CL 上位の破砕帯の主せん断面と同方向の40~60°割れ目主体、砂や粘土をはさむ。	85.41	85.92	CL 上位の破砕帯の直線的なせん断面と同方向の40~60°割れ目主体、砂や粘土をはさむ。 所々割れ目沿いに幅1~2cm程度緑色化を呈する。	85.41	85.92	85.41~85.92m:CL 上位の破砕帯の直線的なせん断面と同方向の40~60°割れ目主体、砂や粘土を挟む。所々、割れ目沿いに幅1~2cm程度緑色化を呈する。	-
281	85.92	86.43	D 割れ目沿いに砂状化が拡大。φ10~30m/m硬さ「C」岩片を多量に混えた砂状化を呈する。	-	-	-	85.92	86.43	85.92~86.43m:D 割れ目沿いに砂状化が拡大。径10~30mm硬さ「C」岩片を多量に混えた砂状化を呈する。	-
282	86.43	86.86	CM 堅硬であるが、割れ目が多い。挟在物はほとんど分布しない。	-	-	-	86.43	86.86	86.43~86.86m:CM 堅硬であるが、割れ目が多い。挟在物はほとんど分布しない。	-

H27-B-1 86.43~90.67m

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
283	86.43	86.86	(岩級区分欄)CM	86.43	86.86	(岩級区分欄)CL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	86.43	86.86	(岩級区分欄)CLに含める	-
284	86.86	87.20	CL 50~60° 割れ目ぞいを主体に軟化が進む。 断片的に硬さ「C」岩片も残っている。	-	-	-	-	86.86	87.20	86.86~87.20m:CL 50~60° 割れ目ぞいを主体に軟化が進む。断片的に硬さ「C」岩片も残りに残っている。	-
285	87.20	87.51	ウ 風化で締った塊状砂状を呈する。 幅1~3m/mの橙色粘土も脈状に分布する。	-	-	-	-	87.20	87.51	87.20~87.51m:D 風化で締った塊状砂状を呈する。 幅1~3mmの橙色粘土も脈状に分布する。	-
285	87.20	87.51	(岩級区分欄)D	87.20	87.51	(岩級区分欄)CL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	87.20	87.51	(岩級区分欄)CLに含める	-
287	87.51	93.53	CL 割れ目ぞいに風化が進んでいる。 全体に硬さ「C」の岩片が主体である。 割れ目には風化起源の締った砂、粘土脈、マンガンをはさむことが多い。	-	-	-	-	87.51	93.53	87.51~93.53m:CL 割れ目ぞいに風化が進んでいる。全体に硬さ「C」の岩片が主体である。割れ目には風化起源の締った砂、粘土脈、マンガンをはさむことが多い。	-
288	-	-	-	87.51	87.61	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)cランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	・平均でDランクとしていた区間を細分し、硬さBランクの区間を追記した。 ・併せてコア形状欄にIVランク、割れ目状態欄にcランク、風化欄にγランク、変質欄に2ランクを追記した	87.51	87.61	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)cランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	-
289	-	-	-	87.81	87.90	傾斜60° 程度で細片化著しい。マンガンを伴う。	・周囲と異なる特徴を追記した	87.81	87.90	87.81~87.90m:傾斜60° 程度で細片化著しい。マンガンを伴う。	-
290	-	-	-	87.81	87.90	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)dランク	・平均でDランクとしていた区間を細分し、硬さEランクの区間を追記した	87.81	87.90	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)dランク	-
291	-	-	-	87.90	88.51	硬さC主体。傾斜20°と50°の割れ目が交差し細片化している。	・細片化している区間が連続するため追記した	87.90	88.51	87.90~88.51m:硬さC主体。傾斜20°と50°の割れ目が交差し細片化している。	-
292	-	-	-	87.90	88.30	(コアの硬さ欄)Cランク	・平均でDランクとしていた区間を細分し、硬さCランクの区間を追記した	87.90	88.30	(コアの硬さ欄)Cランク	-
293	-	-	-	88.06	88.06	傾斜52° 幅2mmの赤褐色粘土挟む。周辺は幅5mm程度で緑色化している	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した	88.06	88.06	88.06m:傾斜52°で幅2mmの赤褐色粘土を挟む。周辺は幅5mm程度で緑色化している。	-
294	-	-	-	88.30	88.56	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	・平均でDランクとしていた区間を細分し、硬さBランクの区間を追記した。 ・併せて風化欄にγランク、変質欄に2ランクを追記した	88.30	88.56	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	-
295	88.51	88.69	40~50°の割れ目は1~2cm間隔で平行に分布。それと60°斜交~直交する割れ目や幅1m/m石英脈も分布。	88.51	88.10	40~50°の割れ目は1~2cm間隔で平行に分布。割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土挟む。それと60°斜交~直交する割れ目や幅1m/m石英脈も分布。	・同様な性状が89.10mまで見られるため下端深度を変更した。 ・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した	88.51	88.10	88.51~89.10m:40~50°の割れ目は1~2cm間隔で平行に分布。割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土挟む。それと60°斜交~直交する割れ目や幅1m/m石英脈も分布。	-
296	89.25	89.56	上下に比べやや割れ目が少なくなる。	-	-	-	-	89.25	89.56	89.25~89.56m:上下に比べやや割れ目が少なくなる。	-
297	-	-	-	89.25	89.56	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	・硬質な部分を挟在するため、Bランクとして追記した。 ・併せて風化欄にγランク、変質欄に2ランクを追記した	89.25	89.56	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	-
298	89.56	89.86	割れ目ぞいに風化が進み全体脆くなる。(硬さD)	-	-	-	-	89.56	89.86	89.56~89.86m:割れ目ぞいに風化が進み全体脆くなる(硬さD)。	-
299	-	-	-	89.86	90.28	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	・硬質で割れ目が少ない部分を挟在するため、Bランク、IVランクとして追記した。 ・併せて風化欄にγランク、変質欄に2ランクを追記した	89.86	90.28	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	-
300	-	-	-	90.43	90.67	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	・硬質で割れ目が少ない部分を挟在するため、Bランク、IVランクとして追記した。 ・併せて風化欄にγランク、変質欄に2ランクを追記した	90.43	90.67	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	-

H27-B-1 90.70~95.45m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		
上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	記事	記事		上端深度	下端深度	記事
		コア観察カードから正しく転記されているか?				追加変更した情報が正しく転記されているか?					コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)
301	-	-	-	90.70	91.00	傾斜80°の割れ目が発達	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した	90.70	91.00	90.70~91.00m:傾斜80°の割れ目が発達する。	
302	91.16	91.25	低角と高角割れ目が交差し、径10m/前後の綿岩片状に砕けている。 下端にマンガン鉱染伴う。	91.16	91.25	低角度割れ目と高角度割れ目が交差し、径10m/前後の綿岩片状に砕けている。 下端にマンガン鉱染伴う。	・表現の適正化	91.16	91.25	91.16~91.25m: 低角度割れ目と高角度割れ目が交差し、径10mm前後の綿岩片状に砕けている。 下端にマンガン鉱染伴う。	
303	-	-	-	91.25	91.73	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	・硬質で割れ目が少ない部分を挟むため、Bランク、IVランクとして追記した ・併せて風化欄にγランク、変質欄に2ランクを追記した	91.25	91.73	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	
304	-	-	-	91.73	91.87	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	・硬質な部分を挟むため、Bランクとして追記した ・併せて風化欄にγランク、変質欄に2ランクを追記した	91.73	91.87	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	
305	92.32	92.32	53°割れ目ぞいにφ0.5m/前後の雲母(セリサイト?)が晶出している。	92.32	92.32	53°割れ目ぞいにφ0.5m/前後の雲母(セリサイト?)が晶出している。 周辺は幅3mmで緑色化	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した	92.32	92.32	92.32m:53°割れ目ぞいに径0.5mm前後の雲母(セリサイト?)が晶出している。 周辺は幅3mmで緑色化する。	
306	-	-	-	92.40	92.60	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	・硬質で割れ目が少ない部分を挟むため、Bランク、IVランクとして追記した ・併せて風化欄にγランク、変質欄に2ランクを追記した	92.40	92.60	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	
307	-	-	-	92.60	92.85	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	・硬質な部分を挟むため、Bランクとして追記した ・併せて風化欄にγランク、変質欄に2ランクを追記した	92.60	92.85	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	
308	-	-	-	92.60	93.00	傾斜30~45°の割れ目が多く、マンガンを伴うものが多い	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した	92.60	94.07	92.60~94.07m:傾斜30~90°の割れ目にマンガンを含むことが多い。 ・マンガンの挟在が多い区間をまとめて書きした。	
309	93.53	94.00	D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。	93.53	93.61	D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。マンガン濃集する	・砂礫状を呈する区間の下端深度に変更した ・周囲と異なる特徴を追記した	93.53	93.61	93.53~93.61m:D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。 ・マンガンについては、深度92.60~94.07mに含めて記載した	
310	93.53	94.00	(岩級区分欄)D	93.53	94.00	(岩級区分欄)CL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	93.53	94.00	(岩級区分欄)CLに含める	
311	-	-	-	93.53	93.61	(コアの形状欄)VIランク (割れ目状態欄)δランク (風化欄)δランク	・砂礫状の部分の細区分を追記した	93.53	93.61	(コアの形状欄)VIランク (割れ目状態欄)δランク (風化欄)δランク	
312	-	-	-	93.61	94.07	傾斜50~90°の割れ目がみられ、マンガンを含むことが多い。	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した	-	-	-	・深度92.60~94.07mに含めて記載した
313	-	-	-	93.61	94.00	(コアの硬さ欄)Dランク (風化欄)δランク	・やや軟質な部分を挟むため、Dランクとして追記した ・併せて風化欄にδランクを追記した	93.61	94.00	(コアの硬さ欄)Dランク (風化欄)δランク	
314	94.00	95.85	CL	-	-	-		94.00	95.85	94.00~95.85m:CL	
315	94.07	94.88	上下端65°で貫入するドレイトアブライト 上下端とも割れ目目化し、破砕や変質粘土は伴わない。 貫入面(65°)に60°斜交→直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。φ1~2mm/mのカンラン石斑晶が多く、一部で流理構造(65~80°)をもつ。直上と直下のGpに破砕や変質は与えていない。	94.07	94.88	上下端65°で貫入するアブライト 上下端とも割れ目目化し、破砕や変質粘土は伴わない。 貫入面(65°)に80°斜交→直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。一部で層状の根椋(65~80°)がみられる。 直上のGpと直下のApに破砕や変質は与えていない。	・流理構造ではなく、色調が層状に変化しているものであるため変更した ・直下のGpをApに見直したことにより変更した	94.07	94.88	94.07~94.88m:上下端65°で貫入するアブライト。 上下端とも割れ目目化し、破砕や変質粘土は伴わない。 貫入面(65°)に60°斜交→直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。一部で層状の根椋(65~80°)をもつ 直上の花崗斑岩と直下のアブライトに破砕や変質は与えていない。	
316	-	-	-	94.88	97.00	アブライト	・深度101.85mに斑晶の多い花崗斑岩との接触部が認められたため、より斑晶が少ない区間をアブライトとして追記した	94.88	97.00	94.88~97.00m:アブライト	
317	-	-	-	94.88	97.00	(地質名欄)アブライト	・記事欄の岩種の記載に合わせて追記した	94.88	97.00	(地質名欄)アブライト	
318	-	-	-	94.88	95.67	傾斜30~60°の割れ目の一部に幅1~2mmの灰白色粘土やマンガンを伴う。	・灰白色粘土やマンガンの挟在は周囲と異なる状況であるため追記した	94.88	95.67	94.88~95.67m:傾斜30~60°の割れ目の一部に幅1~2mmの灰白色粘土やマンガンを伴う。	
319	95.22	95.25	割れ目ぞいに砂状化、マンガン伴う。	-	-	-		95.22	95.25	95.22~95.25m:割れ目ぞいに砂状化、マンガン伴う。	
320	95.30	95.45	緑色おひる	-	-	-		95.30	95.45	95.30~95.45m:緑色帯びる。	

H27-B-1 95.45~100.72m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	記事	記事		上端深度	下端深度	記事	
			記事 (変更箇所を赤字で表示 (変更していないものは「-」で表示))			記事 (変更箇所を赤字で表示 (変更していないものは「-」で表示))	記事を削除・変更・追記した理由				記事	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					適正化した記事内容	
321	-	-	-	95.45	95.85	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	硬質な部分を挿入するため、Bランクとして追記した併せて風化欄にγランク、変質欄に2ランクを追記した	95.45	95.85	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	-	
322	-	-	-	95.85	97.57	(風化欄)γランク (変質欄)2ランク	95.45m以降のコアは、割れ目に酸化鉄汚染がみられ、弱く変質しているため、風化欄にγランク、変質欄に2ランクを追記した	95.85	97.57	(風化欄)γランク (変質欄)2ランク	-	
323	95.85	98.58	CM 硬さ「B」と硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で細片化する。	95.85	96.58	CM 硬さ「B」と硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で細片化する。 傾斜10~20°とそれと直交する50°の割れ目がみられる。	2系統の割れ目が分布することは周囲と異なる状況であるため追記した	95.85	96.58	95.85~96.58m:CM 硬さ「B」と硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で細片化する。 傾斜10~20°とそれと直交する50°の割れ目がみられる。	-	
324	96.00	96.10	割れ目ぞいに幅1~2mm/砂状化し、灰白色粘土脈もはさむ。	-	-	-		96.00	96.10	96.00~96.10m: 割れ目ぞいに幅1~2mm砂状化し、灰白色粘土脈もはさむ。	-	
325	-	-	-	96.71	96.76	傾斜50°程度の割れ目が密集し細片化する。コアは軟質(硬さD)。	周囲と異なる特徴を追記した	96.71	96.76	96.71~96.76m:傾斜50°の割れ目が密集し細片化する。コアは軟質である。	-	
326	-	-	-	97.00	140.00	花崗斑岩 全体に連化し、組織が不明瞭になっている所々、アプライトを挟む	地質名欄に合わせて追記した連化している状況を追記した アプライトを挟むことを追記した	97.00	140.00	97.00~140.00m:花崗斑岩 全体に連化し、組織が不明瞭になっている。所々、アプライトを挟む。	-	
327	96.58	97.57	CL 一部に硬さ「B」の硬質部も混入する。 φ2~3mm/暗緑色鉱物(緑泥石?)が混入点存在する。	96.58	97.11	CL 傾斜50°程度の割れ目が多く、一部に幅1mmの灰白色粘土や砂状化した部分を挟む。	割れ目が発達して砂状化が顕著な下端深度に変更した 割れ目の傾斜及び周囲と異なる特徴を追記した	96.58	97.11	96.58~97.11m:CL 傾斜50°程度の割れ目が多く、一部に幅1mmの灰白色粘土や砂状化した部分を挟む。	-	
328	97.00	97.12	割れ目ぞいに砂状化し、全体が脆くなる。	97.00	97.12	割れ目ぞいに砂状化し、全体が脆くなる。	上記でより詳細に記載したため削除した	-	-	-	-	
329	-	-	-	97.11	97.57	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク	硬質で割れ目も少ない部分を挿入するため、コアの硬さ欄にBランク、コアの形状欄にIVランクとして追記した	97.11	97.57	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク	-	
330	-	-	-	97.57	101.85	アプライトを挟む。 花崗斑岩との境界は上端45°の割れ目、下端90°でゆるぎしている。 101.20~101.60m間は斑晶がやや多く花崗斑岩となる。 アプライトとの境界は漸移的である。	下端に斑晶の多い花崗斑岩との接触部が認められたため、より斑晶が少ない区間をアプライトとし、花崗斑岩との境界について追記した 斑晶がやや多くなる区間を花崗斑岩とし、アプライトとの境界について追記した	97.57	101.85	97.57~101.85m:アプライトを挟む。 花崗斑岩との境界は上端45°の割れ目、下端90°でゆるぎしている。 101.20~101.60m間は斑晶がやや多く花崗斑岩となる。 アプライトとの境界は漸移的である。	-	
331	-	-	-	97.57	101.20	(地質名欄)アプライト	記事欄の岩種の記載に合わせて追記した	97.57	101.20	(地質名欄)アプライト	-	
332	97.57	97.88	D 硬さ「C」の岩片も残留するが、全体は締った土砂状下層付近の97.85mに40°幅1~5mm/赤褐色鉱物脈が分布	97.57	97.88	D 硬さ「C」の岩片も残留するが、全体は締った土砂状下層付近の97.85mに40°幅1~5mm/赤褐色鉱物脈が分布 全体にマンガン脈を挟み、97.71~97.85m間は大きく割れた割れ目が密集する。	周囲と異なる特徴を追記した	97.57	97.88	97.57~97.88m:D 硬さ「C」の岩片も残留するが、全体は締った土砂状下層付近の97.85mに40°幅1~5mm赤褐色鉱物脈が分布。 全体にマンガン脈を挟み、97.71~97.85m間は大きく割れた割れ目が密集する。	-	
333	97.57	97.88	(岩級区分欄)D	97.57	97.88	(岩級区分欄)CL	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	97.57	97.88	(岩級区分欄)CLに含める	-	
334	97.88	100.51	CM 硬質で風化と変質も弱くなる 密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多く10cm以上の柱状コアはごくわずか。割れ目挟在物は殆んど認められない。	-	-	-		97.88	100.51	97.88~100.51m:CM 硬質で風化と変質も弱くなる。 密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多く10cm以上の柱状コアはごくわずか。割れ目挟在物は殆んど認められない。	-	
335	-	-	-	97.88	101.00	割れ目ぞいに酸化・マンガン汚染がみられる。	割れ目ぞいの酸化・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した	97.88	101.00	97.88~101.00m:割れ目ぞいに酸化・マンガン汚染がみられる。	-	
336	-	-	-	97.88	100.51	(割れ目状態欄)bランク	記事欄の記載(割れ目挟在物は殆んど認められない)に合わせて変更した	97.88	100.51	(割れ目状態欄)bランク	-	
337	99.03	99.03	35°割れ目に微細な黄鉄鉱が混入している。	-	-	-		99.03	99.03	99.03m:35°割れ目に微細な黄鉄鉱が混入している。	-	
338	-	-	-	99.38	99.38	傾斜52°の割れ目に沿ってマンガン汚染がみられる。	周囲と異なる割れ目の特徴を追記した	-	-	-	97.88~101.00mの記載に含めたため削除した	
339	100.00	100.51	ゆるぎ割れ目や密着度の低い割れ目が多く細片化し易い。	-	-	-		100.00	100.51	100.00~100.51m: ゆるぎ割れ目や密着度の低い割れ目が多く細片化し易い。	-	
340	100.51	100.72	CL 風化で一部割れ目ぞいに砂状化しマンガン鉱染も受ける。	100.51	100.72	CL 風化で一部割れ目ぞいに砂状化し幅5~10mmでマンガン鉱染も受ける。	マンガン鉱染の幅を追記した	100.51	100.72	100.51~100.72m:CL 風化で一部割れ目ぞいに砂状化し、幅5~10mmでマンガン鉱染も受ける。	-	

H27-B-1 100.51~108.24m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度		記事
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
341	100.51	100.72	(岩級区分欄)CL		区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	100.51	100.72	(岩級区分欄)OMIに含める	-
342	100.72	102.35	OM 割れ目には挟在物は殆んど認められない。 一部でゆる割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。 全体にφ2~3mm/mの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。 101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目ぞいに片状~塊状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。	OM 割れ目には挟在物は殆んど認められない。 一部でゆる割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。 全体にφ2~3mm/mの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。 101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目ぞいに片状~塊状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。	・論記の修正(接雑物⇒挟在物)	100.72	102.35	100.72~102.35m:OM 割れ目には挟在物ほとんど認められない。 一部でゆる割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。 全体に径2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。 101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目ぞいに片状~塊状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。	-
343	-	-	-	(地質名欄)花崗斑岩	記事欄の岩種の記載に合わせて追記した	101.20	101.60	(地質名欄)花崗斑岩	-
344	-	-	-	(地質名欄)アプライト	記事欄の岩種の記載に合わせて追記した	101.60	101.85	(地質名欄)アプライト	-
345	-	-	-	傾斜70°~90°の割れ目の一部に白色脈(幅2mm以下)を挟む	周囲と異なる割れ目の特徴を追記した	101.61	101.72	101.61~101.72m:傾斜70°~90°の割れ目の一部に白色脈(幅2mm以下)を挟む。	-
346	102.05	102.35	高角度で密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。	-	-	102.05	102.35	102.05~102.35m: 高角度で密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。	-
347	102.05	102.05	102.05~	102.05~	・深度以外の記載が無いため削除した	-	-	-	-
348	102.35	107.40	CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。 部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンを挟むが全体では挟在物は殆んど含まない。 φ2~5mm/mの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。	CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。 部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンを挟むが全体では挟在物は殆んど含まない。 φ2~5mm/mの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。	・深度105.00~105.38m間は割れ目が多くCM級に変更したため下端深度を変更した	102.35	105.00	102.35~105.00m:CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。 部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンを挟むが全体では挟在物は殆んど含まない。 径2~5mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。	-
349	-	-	-	傾斜50° 幅1mmの石英脈を伴う	周囲と異なる特徴を追記した	102.65	102.65	102.65m:傾斜50°で幅1mmの石英脈を伴う。	-
350	-	-	-	傾斜50°の割れ目に沿って白濁化している	周囲と異なる割れ目の特徴を追記した	102.75	102.75	102.75m:傾斜50°の割れ目に沿って白濁化している。	-
351	-	-	-	傾斜70°~90°で互いに交差する幅1~5mmの石英脈を伴う。	周囲と異なる特徴を追記した	103.30	103.30	103.30m:傾斜70°~80°で互いに交差する幅1~5mmの石英脈を伴う。	-
352	103.52	103.54	割れ目ぞいに薄く砂状化する。	-	-	103.52	103.54	103.52~103.54m:割れ目ぞいに薄く砂状化する。	-
353	-	-	-	傾斜50°の割れ目に沿って幅5mm程度緑色化している	周囲と異なる割れ目の特徴を追記した	103.98	103.98	103.98m:傾斜50°の割れ目に沿って幅5mm程度緑色化している。	-
354	-	-	-	(コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)εランク	・周囲に比べて割れ目が多く、挟在物を伴う割れ目が多いため、コアの形状欄にIVランク、割れ目状態欄にεランクとして追記した	105.00	105.38	(コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)εランク	-
355	105.23	105.25	65°割れ目は幅1~3mmの緑色粘土脈を伴う。破砕は伴わない。	-	-	105.23	105.25	105.23~105.25m: 65°割れ目は幅1~3mmの緑色粘土脈を伴う。破砕は伴わない。	-
356	-	-	-	傾斜60°、幅1mmの緑灰色粘土を挟む	周囲と異なる割れ目の特徴を追記した	105.72	105.72	105.72m:傾斜60°で幅1mmの緑灰色粘土を挟む。	-
357	-	-	-	所々、長石の緑泥石化が見られる	周囲と異なる特徴を追記した	106.30	108.50	106.30~108.50m:所々、長石の緑泥石化が見られる。	-
358	106.33	106.33	60°割れ目ぞいに幅5mm/mが細片化する。粘土は伴わない。	-	-	106.33	106.33	106.33m:60°割れ目ぞいに幅5mm/mが細片化する。粘土は伴わない。	-
359	-	-	-	(コアの形状欄)IVランク	・周囲に比べて割れ目が多いため、コアの形状欄にIVランクとして追記した	106.33	106.70	(コアの形状欄)IVランク	-
360	107.40	107.83	CM	-	-	107.40	107.83	107.40~107.83m:CM	-
361	107.52	107.55	各々40°、53°割れ目に囲まれ細岩片化~砂状化する。粘土は伴わない。	-	-	107.52	107.55	107.52~107.55m: 各々40°、53°割れ目に囲まれ細岩片化~砂状化する。粘土は伴わない。	-
362	107.83	108.24	CL 風化で割れ目ぞいに軟化が進む。	-	-	107.83	108.24	107.83~108.24m:CL 風化で割れ目ぞいに軟化が進む。	-

H27-B-1 107.83~113.13m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事の削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度		記事
			コア観察カードから正しく転記されているか?						
				追加変更した情報が正しく転記されているか?					
363	107.83	108.24	(岩級区分欄)CL	(岩級区分欄)CM	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	107.83	108.24	(岩級区分欄)CMに含める	-
364	108.20	108.20	50° 割れ目と周辺の割れ目はマンガン鉱染を受ける。	-	-	108.20	108.20	108.20m;50° 割れ目と周辺の割れ目はマンガン鉱染を受ける。	-
365	108.24	109.98	CM 硬質であるが、ゆる割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。 割れ目には挟在物は殆んど分布しない。 109.00~109.14mと109.41~109.60m間は割れ目が密集し、長10~30m/m主体の硬質岩片化している。	-	-	108.24	109.98	108.24~109.98m:CM 硬質であるが、ゆる割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。割れ目には挟在物はほとんど分布しない。 109.00~109.14mと109.41~109.60m間は割れ目が密集し、長さ10~30mm主体の硬質岩片化している。	-
366	-	-	-	アプライト脈を挟む。上端・下端とも50°程度で境界は明瞭、ゆる着している。	周囲に比べて珩晶の含有量が少ないためアプライト脈とし、境界について追記した	108.84	108.76	108.84~108.76m:アプライト脈を挟む。上端・下端とも50°程度で境界は明瞭でゆる着している。	-
367	-	-	-	(地質名欄)アプライト	記事欄の岩種の記載に合わせて追記した	108.84	108.76	(地質名欄)アプライト	-
368	109.98	110.43	CH ゆる割れ目や密着度の低い割れ目を含まない棒状コアからなる。	-	-	109.98	110.43	109.98~110.43m:CH ゆる割れ目や密着度の低い割れ目を含まない棒状コアからなる。	-
369	109.98	110.43	(岩級区分欄)CH	(岩級区分欄)CM	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	109.98	110.43	(岩級区分欄)CMに含める	-
370	110.43	110.74	CL 岩片は硬いが、割れ目の一部で砂状化する。	CM 堅硬で割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	下位のCM級と割れ目の間隔や挟在物の有無に差がないためCM級とし、下端深度を変更した コアの硬さや割れ目の挟在物について追記した	110.43	112.04	110.43~112.04m:CM 堅硬で割れ目に挟在物はほとんど分布しない。	-
371	-	-	-	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)Bランク	硬質で割れ目が少なく、挟在物もほとんど見られない部分を挟むため、コアの硬さ欄にBランク、コアの形状欄にIVランク、割れ目状態欄にBランクとして追記した	110.43	110.74	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)Bランク	-
372	-	-	-	アプライト脈 上端15°で緩傾斜。下端は45°で湾曲。境界は明瞭で一部ゆる着している。	周囲に比べて珩晶の含有量が少ないためアプライト脈とし、境界について追記した	110.72	111.54	110.72~111.54m:アプライト脈を挟む。上端15°で緩傾斜。下端45°で湾曲し、境界は明瞭で一部ゆる着している。	-
373	-	-	-	(地質名欄)アプライト	記事欄の岩種の記載に合わせて追記した	110.72	111.54	(地質名欄)アプライト	-
374	110.74	112.83	CM 30~80°とこれに直交~斜交する50~70°割れ目が主体 割れ目交差部の一部では岩片化するが劣化は伴わない。 112.04m以深は堅硬で割れ目挟在物は殆んど分布しない。 111.13~111.37mは暗緑色化、111.37~111.54mは濃い褐色を割れ目方向と傾斜的に50~60°で示す。 前者は緑泥石化が進んだ区間、後者はカリ長石が多く晶出する区間である。両者の境界部はよく密着し、破砕や変質は伴わない。 112.04m以深は硬さ「C」主体で、一部の割れ目ぞいには風化で薄く砂状化する。粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱染を軽微に受け、割れ目の面ぞいには薄く黒褐色化する。	CL 30~80°とこれに直交~斜交する50~70°割れ目が主体 割れ目交差部の一部では岩片化するが劣化は伴わない。 112.04m以深は堅硬で割れ目挟在物は殆んど分布しない。 111.13~111.37mは暗緑色化で暗緑色を呈する。 111.37~111.54mは最大径2cmの石英、カリ長石からなるペグマタイト。割れ目方向と傾斜的に50~60°で示す。 前者は緑泥石化が進んだ区間、後者はカリ長石が多く晶出する区間である。両者の境界部はよく密着し、破砕や変質は伴わない。 112.04m以深は硬さ「C」主体で、一部の割れ目ぞいには風化で薄く砂状化する。粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱染を軽微に受け、割れ目の面ぞいには薄く黒褐色化する。高角度割れ目が発達している。	・上位のCM級の区間と分けて、CL級の区間のみの記載とし、上端深度を変更した。 ・CL級の区間は、割れ目治いの劣化が見られるため、劣化は伴わないという記載は削除した。 ・112.04~112.83mの区間の記載のため、112.04m以浅の記載は削除した。 ・暗緑色化及びカリ長石が多く晶出する区間の記載を変更し、その下の記載は変更した記載で網羅されているため削除した。 ・前記の修正(11.54m⇒111.54m) 割れ目方向と傾斜的に50~60°で示す。との記載は、誤和的でない割れ目もあるため削除した。 ・発達する割れ目について追記した	110.74	112.83	112.04~112.83m:CL 30~60°とこれに直交~斜交する50~70°割れ目が主体。 割れ目交差部の一部では岩片化する。 111.13~111.37mは緑泥石化で暗緑色を呈する。 111.37~111.54mは最大径2cmの石英、カリ長石からなるペグマタイト。 両者の境界部はよく密着し、破砕や変質は伴わない。 112.04m以深は硬さ「C」主体で、一部の割れ目治いには風化で薄く砂状化する。粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱染を軽微に受け、割れ目の面ぞいには薄く黒褐色化する。高角度割れ目が発達している。	-
375	112.83	113.51	CL 割れ目ぞいに砂状化が進むことが多い	-	-	112.83	113.51	112.83~113.51m:CL 割れ目治いに砂状化が進むことが多い。	-
376	113.03	113.31	消滅したり、消滅しかかっている割れ目も分布する。	-	-	113.03	113.31	113.03~113.31m: 消滅したり、消滅しかかっている割れ目も分布する。	-
377	113.10	113.13	コアチューブ引上げ時に乱され、硬状コア化している。	コアチューブ引上げ時に乱され、硬状コア化している。 全体に灰白~灰黄色の粘土脈を伴う	周囲と異なる特徴を追記した	113.10	113.13	113.10~113.13m: コアチューブ引上げ時に乱され、硬状コア化している。全体に灰白~灰黄色の粘土脈を伴う。	-

H27-B-1 113.51~118.26m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事の統一(破砕帯・破砕部) 最新活動面という用語に統一 最新活動面は肉眼で判断できないため削除した	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度		下端深度
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
378	113.51	113.60	破砕帯(主せん断面113.56m)		破砕帯(主せん断面113.56m) 最新活動面は113.59mか113.60mの可能性ある				
379	113.51	113.56	Hj 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。φ5~10m/m硬さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化~砂状化し、「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ20~35m/m	Hj 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。φ5~10m/m硬さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化~砂状化し、「粘土混じり岩片状」を呈する。硬質、含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ20~35m/m	硬軟、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
380	113.56	113.58	Hc-1 66°で上下端とも小さく波打って連続。途中で厚さ1m/m粘土に分離。φ1m/m石英粒わずかに含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ1~2m/m。	Hc-1 66°で上下端とも小さく波打って連続。途中で厚さ1m/m粘土に分離。φ1m/m石英粒わずかに含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ1~2m/m。直線性に乏しい。	表現の統一(ガウジ-Hc-1に含んで表現) 細粒部の直線性について追記した	113.51	113.60	●113.51~113.60m:破砕部 113.51~113.56m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。径5~10mm硬さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化~砂状化する。灰褐色を呈する。幅20~35mm。 113.56m:粘土状部(Hc-1) 上端66°、下端66°でいずれも小さく波打って連続。途中で幅1mmの粘土に分離する。軟質で、径1mm石英粒わずかに含む。灰白色を呈する。幅1~2mm。 113.56~113.60m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端66°で小さく波打ち、下端63°、幅1mm以下のにぶい橙色の直線的な軟質粘土脈として連続。径5~10mm岩片と岩片間の粘土~砂状部からなる。このうち、113.58~113.60mは硬質砂状を呈し、灰褐色を呈する。幅15~20mm。	
381	113.56	113.60	Hj 上端66°で小さく波打ち、下端63°、幅1m/m以下のにぶい橙色(7.5YR7/4)の直線的な軟質粘土脈として連続。φ5~10m/m岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐色(7.5YR6/2)厚さ15~20m/m。	Hj 上端66°で小さく波打ち、下端63°、幅1m/m以下のにぶい橙色(7.5YR7/4)の直線的な軟質粘土脈として連続。φ5~10m/m岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐色(7.5YR6/2)厚さ15~20m/m。やや硬質。細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。このうち113.58~113.60mは硬質砂状を呈し、やや硬質で、含まれる細粒部の連続性・直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。	硬軟、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
382	113.51	114.00	(岩級区分)D	(岩級区分)CL	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	113.51	114.00	(岩級区分)CLに含める	
383	113.60	114.00	D 硬さ「C」「D」岩片含むが全体として軟化著しい。	D、径2~20mmの垂直稜を30%程度含む暗褐色砂状部。下端境界は2系統の割れ目に沿っており、一部は割れ目を充填している。やや軟質。	113.60~114.00mのD級とした区間を、コアの性状によりD級とCL級に分けたため下端深度を変更した。 D級の区間の特徴を追記した	113.60	113.70	113.60~113.70m:D 径2~20mmの垂直稜を30%程度含む暗褐色砂状部。下端境界は2系統の割れ目に沿っており、一部は割れ目を充填している。やや軟質。	
384	-	-	-	傾斜45°程度の2系統の割れ目が分布し、一部は砂礫状を呈する。	上記のうち、CL級の区間の特徴を追記した。	113.70	114.00	113.70~114.00m:傾斜45°程度の2系統の割れ目が分布し、一部は砂礫状を呈する。	
385	-	-	-	(コアの硬さ欄)cランク (コアの形状欄)vランク (割れ目状態欄)cランク	やや硬質で割れ目に挟み物が見られる部分を挟むため、コアの硬さ欄にcランク、コアの形状欄にvランク、割れ目状態欄にcランクとして追記した	113.70	113.85	(コアの硬さ欄)cランク (コアの形状欄)vランク (割れ目状態欄)cランク	
386	-	-	-	(割れ目状態欄)cランク	割れ目が認識できるため、割れ目状態欄にcランクとして追記した	113.85	114.00	(割れ目状態欄)cランク	
387	114.00	114.75	CL 高角と低角度割れ目が交差し概ね30m/m以下に岩片化。 割れ目の一部は砂状化~マンガン鉱染を受ける	CL 高角度80°と低角度20°の割れ目が交差し概ね30m/m以下に岩片化。 割れ目の一部は砂状化~マンガン鉱染を受ける 一部は掘削時に岩片化したものを含む	割れ目の傾斜を追記した 表現の適正化 人為的なコアの擾乱部を追記した	114.00	114.75	114.00~114.75m:CL 高角度80°と低角度20°の割れ目が交差し概ね30mm以下に岩片化。 割れ目の一部は砂状化~マンガン鉱染を受ける。 一部は掘削時に岩片化したものを含む。	
388	114.75	115.52	D 風化著しく大半が砂状化し、砂礫状を呈する。 一部は掘削時に岩片化したものを含む	D 風化著しく大半が砂状化し、砂礫状を呈する。 一部は掘削時に岩片化したものを含む	人為的なコアの擾乱部を追記した	114.75	115.52	114.75~115.52m:D 風化著しく大半が砂状化し、砂礫状を呈する。 一部は掘削時に岩片化したものを含む。	
389	115.28	115.28	以深では割れ目の一部が残留している。	-		115.28	115.28	115.28m以深では割れ目の一部が残留している。	
390	115.52	118.26	CL 60~70°の高角割れ目と30°前後の低角度割れ目が交差する。 割れ目どいの多くは砂状化するが粘土は分布しない。	CL 60~70°の高角度割れ目と30°前後の低角度割れ目が交差する。 割れ目どいの多くは砂状化するが粘土は分布しない。 一部は掘削時に岩片化したものを含む	118.60mまで同様なコアの性状が見られるため下端深度を変更した。 表現の適正化 粘土を挟み込む割れ目も見られるため、粘土は分布しないという記載を削除した 人為的なコアの擾乱部を追記した	115.52	118.63	115.52~118.63m:CL 60~70°の高角度割れ目と30°前後の低角度割れ目が交差する。 割れ目どいの多くは砂状化する。 一部は掘削時に岩片化したものを含む。	

H27-B-1 116.87~119.30m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事								
記事		記事 (変更箇所を赤書きで表示 (変更していないものは「-」で表示)		記事 (変更箇所を赤書きで表示 (変更していないものは「-」で表示)		記事 (変更箇所を赤書きで表示 (変更していないものは「-」で表示)		記事		記事 (変更箇所を赤書きで表示 (変更していないものは「-」で表示)						
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度					
記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				記事 記事を削除・変更・追記した理由								
記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				記事 記事を削除・変更・追記した理由								
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤書きで表示 (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤書きで表示 (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤書きで表示 (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤書きで表示 (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤書きで表示 (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤書きで表示 (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤書きで表示 (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤書きで表示 (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤書きで表示 (変更していないものは「-」で表示)					
391	116.87	118.25	割れ目その1に砂状化が進んでいる。 岩片はφ10~30mm硬さ「C」主体。	117.00	118.25	割れ目その1に砂状化が進んでいる。 岩片はφ10~30mm硬さ「C」主体。 割れ目は60~70°とこれにほぼ直交する40°前後が多く、交差部ではφ5m/m前後に細片化するものもある。 所々、幅1~3mm程度の灰白色粘土を伴う。 117.25m、117.82mなど、60~70°割れ目は40°割れ目を上めているものを伴っている部分がある。止めている切っている割れ目に細粒部は伴わない。もしくは局所的にしか分布せず。割れ目周辺の原岩組織は明確に認められる。	116.87~117.00m間はコア引き上げ部のため塊状化し、割れ目沿いの砂状化の有無が不明のため上端深度を変更した。 直交する割れ目が認識できるのは、117.00m以降のため、116.87~117.00mにある割れ目に関する記載を削除した。 挟むる灰白色粘土について追記した。 切っている割れ目に関する記載は、117.00m以降の割れ目についてのものであるため、116.87~117.00mにある割れ目に関する記載を追記した。 切っているとした割れ目は、その割れ目を挟んで両側に対比できる切られた割れ目がみられないため、切っているとは判断できないことから、「止めている」割れ目に変更した。 止めている割れ目の深度及び挟む物、周辺の状況を追記した。	117.00~118.25m 割れ目沿いに砂状化が進んでいる。 岩片は径10~30mm硬さ「C」主体。 割れ目は60~70°とこれにほぼ直交する40°前後が多く、交差部では径5mm前後に細片化するものもある。 所々、幅1~3mm程度の灰白色粘土を伴う。 117.25m、117.82mなど、60~70°割れ目は40°割れ目を止めている部分がある。止めている割れ目に細粒部は伴わない。もしくは局所的にしか分布せず。割れ目周辺の原岩組織は明確に認められる。	117.00	118.25	記事を削除・変更・追記した理由	117.00	118.25	記事 選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
392	116.87	117.00	φ10m/m前後の塊状コア。これは掘削時に割れ目その1の砂状部分が流失したためと推定される。 割れ目は60~70°とこれにほぼ直交する40°前後が多く、交差部ではφ5m/m前後に細片化するものもある。 60~70°割れ目は40°割れ目を切っている部分がある。	116.87	117.00	φ10m/m前後の塊状コア。これは掘削時に割れ目その1の砂状部分が流失したためと推定される。 割れ目は60~70°とこれにほぼ直交する40°前後が多く、交差部ではφ5m/m前後に細片化するものもある。 60~70°割れ目は40°割れ目を切っている部分がある。	直交する割れ目が認識できるのは、117.00m以降のため、直交する割れ目に関する記載を削除した。 切っている割れ目に関する記載は、117.00m以降の割れ目についてのものであるため、116.87~117.00mにある割れ目に関する記載を削除した。	116.87~117.00m 径10mm前後の塊状コア。これは掘削時に割れ目沿いの砂状部分が流失したためと推定される。	116.87	117.00	記事 記事を削除・変更・追記した理由	116.87	117.00	記事 選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
393	-	-	-	116.87	117.00	(コアの硬さ欄)○ランク	やや硬質な部分を挟むため、コアの硬さ欄に○ランクとして追記した。	116.87	117.00	(コアの硬さ欄)○ランク	-	-	-	-		
394	118.10	118.83	割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。 118.26m以降では上位よりも更に割れ目その1の砂状化が進んでいる。 一部で厚1~2m/mの白色粘土層をはさむ	118.10	118.83	118.10~118.26m 割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。 118.26~118.83mでは上位よりも更に割れ目その1の砂状化が進んでいる。 一部で厚1~2m/mの白色粘土層を網目状にはさむ	マンガン鉱染が見られるのは118.26mまでのため下端深度を変更した。 割れの修正(118.26m→118.26m) 割れ目沿いの砂状化が進んでいる下端深度を追記した。 白色粘土層は全体に見られるため、一部という記載を削除し、粘土系の分布形態を追記した。	118.10~118.26m: 割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。 118.26~118.83m: 上位よりも更に割れ目沿いの砂状化が進んでいる。 厚さ1~2mmの白色粘土層を網目状に挟む。	118.10	118.83	記事 記事を削除・変更・追記した理由	118.10	118.83	記事 選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
395	118.83	118.94	D 砂状化が著しくなり、締った砂塊状を呈するものが主だが硬さ「C」岩片のみからなる部分も残留	-	-	-	-	118.83~118.94m: D 砂状化が著しくなり、締った砂塊状を呈するものが主だが、硬さ「C」岩片のみからなる部分も残留。	118.83	118.94	記事 記事を削除・変更・追記した理由	118.83	118.94	記事 選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
396	118.94	119.12	破砕帯(主せん断面119.10m)	118.94	119.12	破砕帯(主せん断面119.10m) 最新活動面は119.10mか119.12mの可能性はある	用語の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一 最新活動面は肉眼で判断できないため削除した。	●118.94~119.12m: 破砕部 118.94~119.10m: 砂混じり岩片状部(H) 上端32°、下端60°でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多く、径5~10mmに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化する。色調は黄褐色を呈する。 119.10~119.12m: 横混じり粘土状部(Hc-2) 上端80°で直線的に、下端60°で波打って連続。軟質で、径1~2mm石英粒、径3~10mm粘土化→硬さ「D」岩片を10~20%含む。 また、下端~上端へ斜交する幅2m/mの軟弱な黒色粘土脈が分布する。	破砕、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が認められる。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	118.94	119.12	記事 記事を削除・変更・追記した理由	118.94	119.12	記事 選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
397	118.94	119.10	H 上端32°、下端60°でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多くφ5~10m/mに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化した「砂混じり岩片状」を呈する。色調はふい黄褐色(10YR5/4)、厚さ400m/m(コア長)。	118.94	119.10	H 上端32°、下端60°でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多くφ5~10m/mに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化した「砂混じり岩片状」を呈する。色調はふい黄褐色(10YR5/4)、厚さ400m/m(コア長)。 硬質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が認められる。含まれる細粒部は局所的に分布	厚さとしてコア長を記載したものは、真層ではないため削除した。 主せん断面を直線的なせん断面に変更した。 硬質、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。	●118.94~119.12m: 破砕部 118.94~119.10m: 砂混じり岩片状部(H) 上端32°、下端60°でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多く、径5~10mmに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化する。色調は黄褐色を呈する。 119.10~119.12m: 横混じり粘土状部(Hc-2) 上端80°で直線的に、下端60°で波打って連続。軟質で、径1~2mm石英粒、径3~10mm粘土化→硬さ「D」岩片を10~20%含む。 また、下端~上端へ斜交する幅2m/mの軟弱な黒色粘土脈が分布する。	硬質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が認められる。含まれる細粒部は局所的に分布	118.94	119.10	記事 記事を削除・変更・追記した理由	118.94	119.10	記事 選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
398	119.10	119.12	Hc-2 60°で上端直線的に、下端は波打って連続。φ1~2m/m石英粒、φ3~10m/m粘土化→硬さ「D」岩片を10~20%含む軟弱粘土(ガウジ) 色調は浅黄(5Y8/3)、厚さ13~15m/m 粘土中には、表面がマンガン化したφ1m/mの石英粒が多い。また下端~上端へ斜交する幅2m/mの軟弱な黒色粘土脈が分布。	119.10	119.12	Hc-2 60°で上端直線的に、下端は波打って連続。φ1~2m/m石英粒、φ3~10m/m粘土化→硬さ「D」岩片を10~20%含む軟弱な横混じり粘土からなる組織(ガウジ) 色調は浅黄(5Y8/3)、厚さ13~15m/m 粘土中には、表面がマンガン化したφ1m/mの石英粒が多い。また下端~上端へ斜交する幅2m/mの軟弱な黒色粘土脈が分布。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が認められない。	表現の統一(ガウジ→Hc-2)に含んで表現 硬さを含むため破砕部内物質を変更した。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。	●118.94~119.12m: 破砕部 118.94~119.10m: 砂混じり岩片状部(H) 上端32°、下端60°でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多く、径5~10mmに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化する。色調は黄褐色を呈する。 119.10~119.12m: 横混じり粘土状部(Hc-2) 上端80°で直線的に、下端60°で波打って連続。軟質で、径1~2mm石英粒、径3~10mm粘土化→硬さ「D」岩片を10~20%含む。 また、下端~上端へ斜交する幅2m/mの軟弱な黒色粘土脈が分布する。	表現の統一(ガウジ→Hc-2)に含んで表現 硬さを含むため破砕部内物質を変更した。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。	119.10	119.12	記事 記事を削除・変更・追記した理由	119.10	119.12	記事 選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
399	119.12	119.30	CL 60~70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く細片化するが挟む物は殆んど分布しない	119.12	119.30	CL 60~70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く細片化するが挟む物は殆んど分布しない 一部は掘削時に岩片化したものを含む	割れの修正(挟む物→挟む物) 人為的なコアの擾乱部を追記した。	119.12~119.30m: CL 60~70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く細片化するが、挟む物は殆んど分布しない。一部は掘削時に岩片化したものを含む。	119.12	119.30	記事 記事を削除・変更・追記した理由	119.12	119.30	記事 選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
400	119.12	119.30	(岩粒区分欄)CL	119.12	119.30	(岩粒区分欄)D	区間長が50cm未満のため、周囲の岩粒に含めた	119.12~119.30m: CL 60~70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く細片化するが、挟む物は殆んど分布しない。一部は掘削時に岩片化したものを含む。	119.12	119.30	(岩粒区分欄)Dに含める	-	-	-		

H27-B-1 119.30~128.88m

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
401	119.30	120.78	CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。	119.30	120.78	CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 119.30~120.00m間は傾斜30~60°程度の割れ目が1~5cm程度の間隔で分布し、120.00~120.78m間は傾斜10~30°程度の割れ目が1~10cm程度の間隔で分布する	区間毎に割れ目の傾斜や間隔が異なるため追記した	119.30	120.78	119.30~120.78m:CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 119.30~120.00m間は傾斜30~60°程度の割れ目が1~5cm程度の間隔で分布し、120.00~120.78m間は傾斜10~30°程度の割れ目が1~10cm程度の間隔で分布する。	
402	120.78	122.00	OH 130~140m間でゆ着割れ目が約10m/m間隔で分布。	120.78	122.00	OH 130~140m間でゆ着割れ目が約10m/m間隔で分布。	130~140mとの記載は、当該記載区間ではないため削除し、ゆ着割れ目が見られる当該記載区間内の区間深度に変更した	120.78	122.00	120.78~122.00m:OH	
403	-	-	-	121.09	121.16	アブライト脈を挟む。上端20°、下端15°で屈曲した明瞭な境界をもち、面はゆ着している。	層面に比べて珪酸の含有量が少ないためアブライト脈とし、境界について追記した	121.09	121.16	121.09~121.16m:アブライト脈を挟む。上端20°、下端15°で屈曲した明瞭な境界をもち、面はゆ着している。	
404	122.00	125.06	CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。すでに開口割れ目化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。	-	-	-		122.00	125.06	122.00~125.06m:CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。すでに開口割れ目化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。	
405	-	-	-	122.36	122.36	傾斜52°、幅5~10mm程度で暗緑色を呈する。	層面と異なる特徴を追記した	122.36	122.36	122.36m:傾斜52°、幅5~10mm程度で暗緑色を呈する。	
406	123.38	123.38	割れ目交差部で幅2~3mm細片状化するが、風化砂状部や粘土化部はさまさない。	-	-	-		123.38	123.38	123.38m:割れ目交差部で幅2~3mm細片状化するが、風化砂状部や粘土化部はさまさない。	
407	124.54	124.54	55°割れ目面に厚0.5mm/m、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。	-	-	-		124.54	124.54	124.54m:55°割れ目面に厚0.5mm、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。	
408	125.06	125.28	CL ゆ着割れ目などから分離・細片化している。砂や粘土はさまさない。	-	-	-		125.06	125.28	125.06~125.28m:CL ゆ着割れ目などから分離・細片化している。砂や粘土はさまさない。	
408	125.06	125.28	(岩級区分欄)CL	125.06	125.28	(岩級区分欄)CM	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	125.06	125.28	(岩級区分欄)CMに含める	
410	125.28	127.68	CM 開口割れ目と平行方向のゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの打撃で一部は分離・細片化する。ごく一部(下記127.16~127.25m間)でごく薄く風化する以外はほぼ新鮮、未風化。	-	-	-		125.28	127.68	125.28~127.68m:CM 開口割れ目と平行方向のゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの打撃で一部は分離・細片化する。ごく一部(下記127.16~127.25m間)でごく薄く風化する以外はほぼ新鮮、未風化。	
411	127.16	127.25	φ10m/m前後で角礫化している。下端の45°割れ目面には幅10m/mがφ2~5m/mで細礫状化し、風化で淡褐色化する。	-	-	-		127.16	127.25	127.16~127.25m: 径10mm前後で角礫化している。下端の45°割れ目面には幅10mmが径2~5mmで細礫状化し、風化で淡褐色化する。	
412	127.68	128.08	CL 厚さ5~10m/m程度の片状コア主体で挟在物は下部部の128.05~128.08mがφ3~5m/m硬質岩片を含む「硬質砂」状を呈する以外、砂、粘土などはさまさない。	127.68	128.08	CL 厚さ5~10m/m程度の片状コア主体で挟在物は下部部の128.05~128.08mがφ3~5m/m硬質岩片を含む「硬質砂」状を呈する以外、砂、粘土などはさまさない。一部は掘削時に岩片化している。	掘削時の修正(挟在物=挟在物) 人為的なコアの擾乱部を追記した	127.68	128.08	127.68~128.08m:CL 厚さ5~10m/m程度の片状コア主体で、挟在物は下部部の128.05~128.08mが径3~5mm硬質岩片を含む「硬質砂」状を呈する以外、砂、粘土などはさまさない。一部は掘削時に岩片化している。	
413	127.68	128.08	(岩級区分欄)CL	127.68	128.08	(岩級区分欄)CM	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	127.68	128.08	(岩級区分欄)CMに含める	
414	128.08	128.64	CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟在物は認められない。	-	-	-		128.08	128.64	128.08~128.64m:CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟在物は認められない。	
415	128.64	128.88	CL φ10m/m前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目そいで風化が進行していると推定される。	-	-	-		128.64	128.88	128.64~128.88m:CL 径10mm前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目そいで風化が進行していると推定される。	

H27-B-1 128.64~138.44m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度		記事
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
416	128.64	128.88	(岩級区分欄)CL	(岩級区分欄)CM	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	128.64	128.88	(岩級区分欄)CMに含める	-
417	128.88	129.91	CM 80~70°の高角度と30~40°の低角度割れ目の交差部ではφ10m/m前後に片状~角礫状するが、砂状部や粘土化部はさまない。	CM 80~70°の高角度と30~40°の中角度割れ目の交差部ではφ10m/m前後に片状~角礫状するが、砂状部や粘土化部はさまない。	30~40°のため、中角度に変更した	128.88	129.91	128.88~129.91m:CM 80~70°の高角度と30~40°の中角度割れ目の交差部ではφ10mm前後に片状~角礫状するが、砂状部や粘土化部はさまない。	-
418	129.91	131.93	CH 一部のコアには仲着割れ目や密着割れ目を含むが、ハンマーの強打でも密着し、分離・細片化しないものが多い。	-	-	129.91	131.93	129.91~131.93m:CH 一部のコアには仲着割れ目や密着割れ目を含むが、ハンマーの強打でも密着し、分離・細片化しないものが多い。	-
419	-	-	-	130.00~140.00m:仲着割れ目が約10mm間隔で分布。	-	130.00	140.00	130.00~140.00m:仲着割れ目が約10mm間隔で分布。	-
420	131.40	131.52	φ20~30mの角礫状化しているが、これはロッド引上時に生じた人為的な現象と推定される。	-	-	131.40	131.52	131.40~131.52m:径20~30mmに角礫状化しているが、これはロッド引上時に生じた人為的な現象と推定される。	-
421	131.93	138.07	CM 仲着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。割れ目の一部は風化で薄く砂状部をはさむことがあるが、挟雑物がない(b)割れ目が主体。	CM 仲着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。割れ目の一部は風化で薄く砂状部をはさむことがあるが、挟雑物がない(b)割れ目が主体。	・誤記の修正(挟雑物⇒挟在物)	131.93	138.07	131.93~138.07m:CM 仲着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。割れ目の一部は風化で薄く砂状部を挟むことがあるが、挟在物がない(b)割れ目が主体。	-
422	132.07	132.24	φ10~20m/m角礫状化する。割れ目面に砂が付着するものが多い。微細な黄鉄鉱も伴う。同区間は珪質である。	-	-	132.07	132.24	132.07~132.24m: 径10~20mm角礫状化する。割れ目面に砂が付着するものが多い。微細な黄鉄鉱も伴う。同区間は珪質である。	-
423	-	-	-	アフライト脈を挟む 上端はコアチューブ引き上げ部で不明、下端は0°で明瞭な境界をもち、面は仲着している。	・周囲に比べて珪晶の含有量が少いためアフライト脈とし、境界について追記した	132.18	132.33	132.18~132.33m:アフライト脈を挟む。上端はコアチューブ引き上げ部で不明、下端は0°で明瞭な境界をもち、面は仲着している。	-
424	-	-	-	アフライト脈を挟む 上端、下端とも傾斜5°で明瞭な境界をもち、面は仲着している。	・周囲に比べて珪晶の含有量が少いためアフライト脈とし、境界について追記した	133.20	133.25	133.20~133.25m:アフライト脈を挟む。上端、下端とも傾斜5°で明瞭な境界をもち、面は仲着している。	-
425	133.40	134.00	仲着した密着割れ目ぞいに開口化し、φ10m/m前後に細かく砕けている。	-	-	133.40	134.00	133.40~134.00m:仲着した密着割れ目ぞいに開口化し、φ10mm前後に細かく砕けている。	-
426	133.82	133.82	80°割れ目ぞい幅20m/mがφ3~5m/mの細片状化しているが、風化に起因する砂や粘土ははさんでいない。	-	-	133.82	133.82	133.82m:80°割れ目ぞい幅20mmが径3~5mmの細片状化しているが、風化に起因する砂や粘土ははさんでいない。	-
427	-	-	-	傾斜35°、幅2mm以下の石英脈を挟み、一部に白色の細脈を伴う。	・周囲と異なる特徴を追記した	134.78	134.78	134.78m:傾斜35°で幅2mm以下の石英脈を挟み、一部に白色の細脈を伴う。	-
428	-	-	-	傾斜56°、幅25mm程度で緑色化している。	・周囲と異なる特徴を追記した	134.87	134.91	134.87~134.91m:傾斜56°、幅25mmで緑色化している。	-
429	-	-	-	傾斜20°及び135.45m付近の2本の傾斜55°程度の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。	・周囲と異なる特徴を追記した	135.41	135.41	135.41m:傾斜20°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。 135.45m付近:傾斜55°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。	-
430	135.80	136.00	仲着割れ目ぞいに開口し、長さ10~30m/m程度に細片化している。	-	-	135.80	136.00	135.80~136.00m:仲着割れ目ぞいに開口し、長さ10~30mm程度に細片化している。	-
431	137.00	138.07	仲着割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。すでに開口割れ目化しているものも多い。φ2~3m/m暗緑灰色の緑泥石が斑点状に点在する。	-	-	137.00	138.07	137.00~138.07m:仲着割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。すでに開口割れ目化しているものも多い。径2~3mm暗緑灰色の緑泥石が斑点状に点在する。	-
432	138.07	138.44	CM 密着度の低い仲着割れ目を多く含み、全体として硬さ「C」である。 長石の白濁化や割れ目挟在物は殆んど認められない。 φ2~3m/m暗緑灰色の緑泥石斑点が多い。	CM 密着度の低い潜在割れ目を多く含み、全体として硬さ「C」である。 長石の白濁化や割れ目挟在物は殆んど認められない。 φ2~3m/m暗緑灰色の緑泥石斑点が多い。	・仲着割れ目は、完全に密着しているもので、表現が不適切なため変更した	138.07	138.44	138.07~138.44m:CM 密着度の低い潜在割れ目を多く含み、全体として硬さ「C」である。 長石の白濁化や割れ目挟在物はほとんど認められない。 径2~3mm暗緑灰色の緑泥石斑点が多い。	-

H27-B-1 138.44~140.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
433	138.44	138.80	DH 堅硬、塊状。ゆず割れ目が多いが密着度高くハンマー強打でも分離しない。	-	-	-	138.44	138.80	138.44~138.80m:DH 堅硬、塊状、ゆず割れ目が多いが、密着度高くハンマー強打でも分離しない。	-
434	138.44	138.80	(岩級区分欄)CH	138.44	138.80	(岩級区分欄)CM	138.44	138.80	(岩級区分欄)CMに含める	-
435	138.80	139.82	CL 139.18m以浅は硬さ「C」、以深は軟化が進み「D」である。全体に割れ目状な物は殆んど含まない。	-	-	-	138.80	139.82	138.80~139.82m:CL 139.18m以浅は硬さ「C」、以深は軟化が進み「D」である。全体に割れ目状な物はほとんど含まない。	-
436	138.93	138.93	60~70° 厚さ5~10mm/mで湾曲しながら石英脈が密着~一部割れ目化して連続。	-	-	-	138.93	138.93	138.93m:60~70° 厚さ5~10mmで湾曲しながら石英脈が密着~一部割れ目化して連続。	-
437	138.95	139.08	30~40° と70° 割れ目が交差。岩片状を呈する。劣化は伴わない。	-	-	-	138.95	139.08	138.95~139.08m:30~40° と70° 割れ目が交差し岩片状を呈する。劣化は伴わない。	-
438	139.18	139.18	以深は上位より風化と変質が進む。	-	-	-	139.18	139.18	139.18m以深は上位より風化と変質が進む。	-
439	139.31	139.31	72° 割れ目ぞい厚さ2~3mm/mマンガン鉱染を受ける	-	-	-	139.31	139.31	139.31m:72° 割れ目ぞい厚さ2~3mmマンガン鉱染を受ける。	-
440	139.82	139.88	(岩級区分欄)D	139.82	139.88	(岩級区分欄)CL	139.82	139.88	(岩級区分欄)CLに含める	-
441	139.82	139.88	破砕帯(主せん断面139.82m)	139.82	139.88	破砕部(最新活動面139.82m) 直線的な細粒部			用語の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一 最新活動面の性状を追記した	-
442	139.82	139.82	Hc-1 52° で直線的に連続。肉眼的には石英粒、岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は暗緑灰(5G3/1)~灰褐色(7.5YR4/1)、厚さ0.5~1m/m	139.82	139.82	Hc-1 52° で直線的に連続。肉眼的には石英粒、岩片を含まない軟弱粘土からなる(ガウジ)。色調は暗緑灰(5G3/1)~灰褐色(7.5YR4/1)、厚さ0.5~1m/m			肉眼的観察の所見しか記載しないため「肉眼的には」は削除した 表現の統一(ガウジ→Hc-1)も含んで表現	-
443	139.82	139.88	Hj 52° で上下端とも直線的に連続。φ3~5mm/mlに細かく岩片化。岩片間は砂状化(細粒砂主体)。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。全体に砂混じり岩片状を呈する。色調は暗緑灰色(10G3/1)、厚さ40m/m	139.82	139.88	Hj 52° で上下端とも直線的に連続。φ3~5mm/mlに細かく岩片化。岩片間は砂状化(直粒砂主体)。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。全体に砂混じり岩片状を呈する。色調は暗緑灰色(10G3/1)、厚さ40m/m 硬質。マンガン汚染して原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明瞭。細粒部は伴わない。	139.82	139.88	硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織、マンガン汚染について追記した。 主せん断面を直線的なせん断面に変更した	-
444	139.88	139.95	D 主せん断面と平行に近い割れ目が多い。岩組織は残存する。	139.88	139.95	D 直線的なせん断面と平行に近い割れ目が多い。岩組織は残存する。マンガン汚染著しい。			周囲と異なる特徴を追記した 主せん断面を直線的なせん断面に変更した	-
445	139.95	140.03	CL 硬さ「C」岩片主体。	-	-	-	139.95	140.03	139.95~140.00m:CL 硬さ「C」岩片主体。	-

H27-B-2